平　成　22　年　度
学生生活調査結果の概要

まえがき

この「学生生活調査」は，学生の標準的な学生生活状況を把握し，学生生活支援事業の改善を図るための基礎資料を得ることを目的として,平成 14 年度まで文部科学省において隔年に実施されていましたが,平成 16 年 4 月に独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が設立されたことに伴い，文部科学省から日本学生支援機構に業務が移管されました。

このたび，平成 22 年度の調査結果をとりまとめましたので，主に大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成 20 年度）との比較を行いながら，その調査の概要を説明します。

今回の調査は，前回調査と同様に大学学部，短期大学本科及び大学院の学生（休学者及び外国人学生を除く）を調査対象とし，各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況，学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として,全国 2,980,279 人中から 82,330 人を抽出し，平成 22 年 11 月現在で実施したものです。

調査の方法としては，大学・短期大学の別，昼間部・夜間部の別，大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別，設置者（国公私立）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め，サンプル数を算出し，在籍学生数に比例して各大学，短期大学にサンプル数を割り当てて調査を依頼しました。有効回答数は 37,151 人（回収率は 45.1%）で，本文に紹介する資料に掲げる数値は，この標本調査の結果を基礎として,全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑であって，この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが，この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

終わりに，平成 22 年度調査の実施に際し，多大なご協力をいただいた全国各大学及び各短期大学の皆様に深く感謝申し上げます。

独立行政法人　日本学生支援機構
学生生活部　学生生活計画課

＜ 学生生活費等について ＞

大学教育を受けるのに年間どれだけの経費がかかっているかを知るため，学生生活を送るために不可欠な要素としての学費と生活費を取り上げ，これを学生生活費としてその実態をみることとする。

ここに取り上げた「学費」とは，授業料，その他の学校納付金（入学料や入学時にのみ支払う施設設備費などの一時的納付金を除く），図書，学用品等に要する修学費，課外活動費及び通学費をいう。「生活費」とは，食費，住居・光熱費，保健衛生費，娯楽・し好費及びその他の日常費をいう。（用語の定義，年間収入の取り方等については，後掲の《資料２》調査票の様式及び調査項目の説明を参照）

また，この調査における大学院の「修士課程」，「博士課程」は次の区分によるものである。「修士課程」とは，(1)修士課程，(2)博士課程前期，(3)一貫制博士課程の前期２年とする。「博士課程」とは，(1)医・歯・獣医学系博士課程，(2) 博士課程後期，(3)一貫制博士課程の後期３年とする。なお，「専門職学位課程」は法科大学院を含む。

学生生活費は，大学・短期大学別，昼間部・夜間部別，大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程別，設置者別あるいは居住形態別等学生の置かれている条件の違いによって大きく影響されるため，以下，いくつかの基本的な条件について集計分析を行っているが，解説は主として大学昼間部及び大学院について行うことにする。

本調査結果における留意事項

1．四捨五入した数を使用している表では，内訳の数の合計が，合計欄の数と一致しない場合がある。

2．平成 14 年度までは文部科学省が調査を実施した。

3．大学院専門職学位課程については，平成 18 年度より調査対象とした。

4．表中の記号は次のように使う。

「－」　計数が無い場合

「0.0」　計数が単位未満の場合

「…」　計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合

1．学生生活費

（1）年間学生生活費（A表）

年間の学生生活費は，次のようになっている。

①大学昼間部等

大学昼間部は約 183 万円，短期大学昼間部は約 159 万円となっている。こ

れを平成 20 年度調査と比較すると，大学昼間部で 1.5%減，短期大学昼間部で 0.7%増となっている。

なお，夜間部の学生生活費は，昼間部に比べ大学で約 39 万円，短期大学で約 48 万円低いが，平成 20 年度調査と比較すると，大学で 1.7%増，短期大学で 3.1%増となっている。

②大学院

修士課程は約 173 万円，博士課程は約 211 万円，専門職学位課程は約 224 万円で，これを平成 20 年度調査と比較すると，修士課程で 0.6%減，博士課程で 2.9%増，専門職学位課程で 1.0%増となっている。

Ａ表　年間学生生活費

（単位：円）

区分		大学		短期大学		大学院		
		昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程
学費	授業料	866,000	509,600	744,200	358,300	606,800	485,800	936,800
	その他の学校納付金	145,600	60,600	214,400	93,500	39,500	20,000	79,100
	修学費	50,200	40,000	56,500	35,000	55,800	136,100	129,300
	課外活動費	40,400	30,300	16,900	9,500	38,000	73,700	24,100
	通学費	67,800	67,200	81,600	53,000	62,200	69,600	74,300
	計	1,170,000	707,700	1,113,600	549,300	802,300	785,200	1,243,600
生活費	食費	171,100	180,100	105,300	129,000	265,800	379,800	296,200
	住居・光熱費	208,400	199,400	104,200	119,700	337,400	447,000	316,500
	保健衛生費	39,900	42,700	41,200	39,200	45,300	68,500	56,200
	娯楽し好費	138,300	164,100	118,100	145,100	153,900	213,300	153,700
	その他の日常費	102,800	141,700	109,200	127,600	127,400	218,400	177,500
	計	660,500	728,000	478,000	560,600	929,800	1,327,000	1,000,100
合計		(△1.5) 1,830,500	(1.7) 1,435,700	(0.7) 1,591,600	(3.1) 1,109,900	(△0.6) 1,732,100	(2.9) 2,112,200	(1.0) 2,243,700
参考	平成 20 年度	1,859,300	1,412,200	1,580,000	1,076,200	1,742,100	2,053,100	2,222,500
	平成 18 年度	1,895,100	1,483,000	1,640,200	1,208,300	1,749,800	2,081,400	2,306,000
	平成 16 年度	1,940,800	1,511,100	1,664,700	1,379,600	1,772,600	2,105,400	…
	平成 14 年度	2,017,700	1,553,900	1,785,100	1,462,800	1,825,400	2,156,900	…

（注）（　　）は，平成 20 年度調査からの伸び率である。

（2）学生生活費の推移（B表，第1図）

①大学昼間部

学生生活費の前回調査からの伸び率は，平成 20 年度調査においては 1.9%減となったが，今回調査においても 1.5%減となっている。これを学費と生活費とに分けて，その伸び率をみると，学費は 1.1%減，生活費は 2.3%減となっている。

②大学院

学生生活費の前回調査からの伸び率は，修士課程で 0.6%減，博士課程で 2.9%増，専門職学位課程で 1.0%増となっている。学費と生活費に分けてその伸び率をみると，学費は修士課程，博士課程，専門職学位課程でそれぞれ 0.9%減，0.1%増，2.7%減，生活費は修士課程，博士課程，専門職学位課程でそれぞれ 0.3%減，4.6%増，5.9%増となっている。

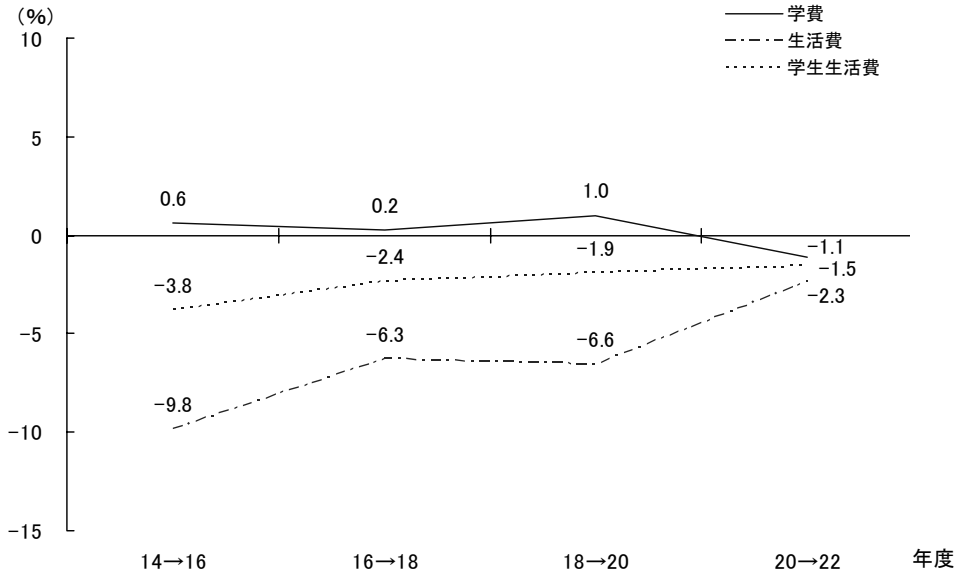
Ｂ表　学生生活費の推移

（単位：円）

区分				平成16年度	平成18年度	平成20年度	平成22年度
大学	昼間部	学費	授業料及びその他の学校納付金	(0.9) 997,300	(1.1) 1,008,400	(1.8) 1,026,700	(△1.5) 1,011,600
			修学費，課外活動費，通学費	(△0.7) 171,200	(△4.8) 162,900	(△4.1) 156,300	(1.3) 158,400
			計	(0.6) 1,168,500	(0.2) 1,171,300	(1.0) 1,183,000	(△1.1) 1,170,000
		生活費	食費，住居・光熱費	(△7.2) 449,000	(△5.1) 426,000	(△9.7) 384,500	(△1.3) 379,500
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	(△13.2) 323,300	(△7.9) 297,800	(△2.0) 291,800	(△3.7) 281,000
			計	(△9.8) 772,300	(△6.3) 723,800	(△6.6) 676,300	(△2.3) 660,500
		合計		(△3.8) 1,940,800	(△2.4) 1,895,100	(△1.9) 1,859,300	(△1.5) 1,830,500
大学院	修士課程	学費	授業料及びその他の学校納付金	(3.9) 632,900	(2.4) 648,400	(0.8) 653,900	(△1.2) 646,300
			修学費，課外活動費，通学費	(△5.8) 162,700	(0.4) 163,300	(△4.7) 155,700	(0.2) 156,000
			計	(1.8) 795,600	(2.0) 811,700	(△0.3) 809,600	(△0.9) 802,300
		生活費	食費，住居・光熱費	(△2.3) 641,000	(△4.1) 614,600	(△1.9) 602,900	(0.0) 603,200
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	(△13.3) 336,000	(△3.7) 323,500	(1.9) 329,600	(△0.9) 326,600
			計	(△6.4) 977,000	(△4.0) 938,100	(△0.6) 932,500	(△0.3) 929,800
		合計		(△2.9) 1,772,600	(△1.3) 1,749,800	(△0.4) 1,742,100	(△0.6) 1,732,100
	博士課程	学費	授業料及びその他の学校納付金	(7.4) 527,000	(0.6) 530,100	(△3.6) 511,000	(△1.0) 505,800
			修学費，課外活動費，通学費	(△8.7) 253,400	(8.2) 274,100	(△0.2) 273,500	(2.2) 279,400
			計	(1.6) 780,400	(3.0) 804,200	(△2.4) 784,500	(0.1) 785,200
		生活費	食費，住居・光熱費	(△3.3) 865,600	(△5.5) 818,400	(△0.9) 810,900	(2.0) 826,800
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	(△7.0) 459,400	(△0.1) 458,800	(△0.2) 457,700	(9.3) 500,200
			計	(△4.6) 1,325,000	(△3.6) 1,277,200	(△0.7) 1,268,600	(4.6) 1,327,000
		合計		(△2.4) 2,105,400	(△1.1) 2,081,400	(△1.4) 2,053,100	(2.9) 2,112,200
	専門職学位課程	学費	授業料及びその他の学校納付金	・・・	1,085,700	(△3.3) 1,050,100	(△3.3) 1,015,900
			修学費，課外活動費，通学費	・・・	236,700	(△3.8) 227,700	(0.0) 227,700
			計	・・・	1,322,400	(△3.4) 1,277,800	(△2.7) 1,243,600
		生活費	食費，住居・光熱費	・・・	621,300	(△4.7) 591,800	(3.5) 612,700
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	・・・	362,300	(△2.6) 352,900	(9.8) 387,400
			計	・・・	983,600	(△4.0) 944,700	(5.9) 1,000,100
		合計		・・・	2,306,000	(△3.6) 2,222,500	(1.0) 2,243,700
家計消費支出指数（年度）				(△0.4) 99.6	(△2.5) 97.1	(△0.4) 96.7	(△2.3) 94.4
消費者物価指数（年度）				(△0.3) 99.7	(0.0) 99.7	(1.5) 101.2	(△2.1) 99.1

（注）　1．（　　）は，それぞれ前回調査からの伸び率である。
　　2．家計消費支出指数及び消費者物価指数について，平成 14 年度の指数を 100 とする。
　　3．家計消費支出指数及び消費者物価指数は，総務省家計調査の結果等より算出。

第１図　学生生活費の伸び率の推移（大学昼間部）



（3）設置者別の学生生活費（C表）

学生生活費を設置者別で比較すると，次のようになっている。

①大学昼間部等

学費と生活費を合わせた学生生活費は,大学昼間部で私立が国立に比べ約46 万円高くなっている。これは学費の差によるところが大きい。

短期大学昼間部についても，学費の差によって私立が公立に比べ高くなっている。

また，夜間部の場合も，昼間部と同様に私立が高くなっている。なお，夜間部の学費は，昼間部に比べ全体的に低くなっている。

②大学院

学費と生活費を合わせた学生生活費は，私立が国立に比べ修士課程，博士課程でともに約 28 万円，専門職学位課程で約 54 万円高くなっている。

学費は，私立が国立に比べ修士課程で約 45 万円，博士課程で約 30 万円，専門職学位課程で約 57 万円高くなっている。生活費は，国立が私立に比べ修士課程で約 18 万円，博士課程で約 2 万円，専門職学位課程で約 3 万円高くなっている。

Ｃ表　設置者別の学生生活費

（単位：円）

区分			学費			生活費			合計
			授業料，その他の学校納付金	修学費，課外活動費，通学費	小計	食費，住居・光熱費	保健衛生費，娯楽し好費，その他の日常費	小計	
大学学部	昼間部	国立	512,500	144,100	656,600	542,500	279,900	822,400	1,479,000
		公立	533,500	140,800	674,300	460,100	271,700	731,800	1,406,100
		私立	1,154,200	162,600	1,316,800	337,500	281,800	619,300	1,936,100
		平均	1,011,600	158,400	1,170,000	379,500	281,000	660,500	1,830,500
	夜間部	国立	264,100	131,400	395,500	454,400	416,900	871,300	1,266,800
		公立	353,100	150,700	503,800	505,500	325,100	830,600	1,334,400
		私立	681,300	138,100	819,400	346,200	329,600	675,800	1,495,200
		平均	570,200	137,500	707,700	379,500	348,500	728,000	1,435,700
短期大学	昼間部	国立	…	…	…	…	…	…	…
		公立	407,800	106,900	514,700	331,000	240,200	571,200	1,085,900
		私立	990,500	157,800	1,148,300	202,400	270,100	472,500	1,620,800
		平均	958,600	155,000	1,113,600	209,500	268,500	478,000	1,591,600
	夜間部	国立	…	…	…	…	…	…	…
		公立	182,300	93,500	275,800	305,000	317,100	622,100	897,900
		私立	554,500	99,100	653,600	227,300	309,900	537,200	1,190,800
		平均	451,800	97,500	549,300	248,700	311,900	560,600	1,109,900
大学院	修士課程	国立	502,800	129,700	632,500	686,300	314,300	1,000,600	1,633,100
		公立	523,300	179,100	702,400	543,200	360,200	903,400	1,605,800
		私立	892,900	193,600	1,086,500	481,700	340,500	822,200	1,908,700
		平均	646,300	156,000	802,300	603,200	326,600	929,800	1,732,100
	博士課程	国立	450,700	259,000	709,700	854,900	480,600	1,335,500	2,045,200
		公立	479,400	299,600	779,000	695,600	567,900	1,263,500	2,042,500
		私立	672,700	335,200	1,007,900	771,900	543,000	1,314,900	2,322,800
		平均	505,800	279,400	785,200	826,800	500,200	1,327,000	2,112,200
	専門職学位課程	国立	665,300	212,000	877,300	656,800	366,800	1,023,600	1,900,900
		公立	553,500	199,500	753,000	517,400	311,300	828,700	1,581,700
		私立	1,207,200	236,800	1,444,000	596,600	401,200	997,800	2,441,800
		平均	1,015,900	227,700	1,243,600	612,700	387,400	1,000,100	2,243,700

（4）居住形態別の学生数の割合（D表）

居住形態別学生数の割合は，大学昼間部の平均で自宅 55.2%，学寮 5.5%，下宿・アパート・その他（以下，「下宿等」という）39.3%である。なお，自宅通学者は，私立では 61.1%を占めているのに対し，国立，公立ではそれぞれ 33.2%，40.3%と低くなっている。

短期大学昼間部の平均では，自宅 72.4%，学寮 7.8%，下宿等 19.8%と自宅が最も高く，その割合は大学昼間部と比べて高くなっている。

また，大学院については，修士課程の平均で自宅 44.1%，学寮 2.7%，下宿等 53.2%，博士課程の平均で自宅 43.5%，学寮 2.6%，下宿等 54.0%，専門職学位課程の平均で自宅 56.3%，学寮 3.4%，下宿等 40.4%となっている。

大学，短期大学，大学院専門職学位課程では自宅の割合が最も高いが，大学院修士課程，博士課程では下宿等が最も高くなっている。

Ｄ表　居住形態別学生数の割合

（単位：%）

区分			自宅	学寮	下宿等	計
大学	昼間部	国立	33.2	5.9	60.9	100.0
		公立	40.3	2.8	56.9	100.0
		私立	61.1	5.6	33.3	100.0
		平均	55.2	5.5	39.3	100.0
	夜間部		57.8	3.9	38.4	100.0
短期大学	昼間部		72.4	7.8	19.8	100.0
	夜間部		68.0	1.2	30.8	100.0
大学院	修士課程	国立	32.3	4.0	63.7	100.0
		公立	52.6	2.0	45.3	100.0
		私立	60.5	1.0	38.5	100.0
		平均	44.1	2.7	53.2	100.0
	博士課程	国立	38.3	3.2	58.5	100.0
		公立	57.4	2.5	40.0	100.0
		私立	54.6	0.8	44.7	100.0
		平均	43.5	2.6	54.0	100.0
	専門職学位課程	国立	46.6	4.9	48.5	100.0
		公立	52.3	14.4	33.4	100.0
		私立	61.3	2.0	36.7	100.0
		平均	56.3	3.4	40.4	100.0

（5）居住形態別の学生生活費（E表，第2図）

①大学昼間部

居住形態別の学生生活費は，国・公・私立いずれも下宿等通学者が最も高く，自宅通学者の 1.4～1.6 倍であり，その差額は，国立約 62 万円，公立約 56 万円，私立約 67 万円となっている。学寮通学者の場合は，国・公・私立いずれも自宅通学者と下宿等通学者の中間にあって，自宅通学者の 1.2 倍で，その差額は，国立約 22 万円，公立約 19 万円，私立約 37 万円となっている。

自宅通学者と学寮，下宿等通学者の学生生活費の差は，主として食費及び住居・光熱費によるものであり，これを大学昼間部の平均を例にとって月額で示したのが第 2 図である。

食費及び住居･光熱費について，下宿等通学者と学寮通学者を比較すると，下宿等通学者の方が，食費で月額約 3 千円，住居・光熱費で月額約 1 万 5 千円高くなっている。

修学費（課外活動費，通学費を含む。）については，自宅通学者が最も高いが，これは自宅通学者の通学費が最も高いことによるものである。

②大学院

修士課程では，下宿等通学者の学生生活費は，自宅通学者の 1.5～1.6 倍で，

その差額は約 68～75 万円となっている。

博士課程では，下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の 1.4 倍で，その差額は約 64～77 万円となっている。

専門職学位課程では，下宿等通学者の学生生活費は，自宅通学者の 1.4 倍で，その差額は，約 61～75 万円となっている。

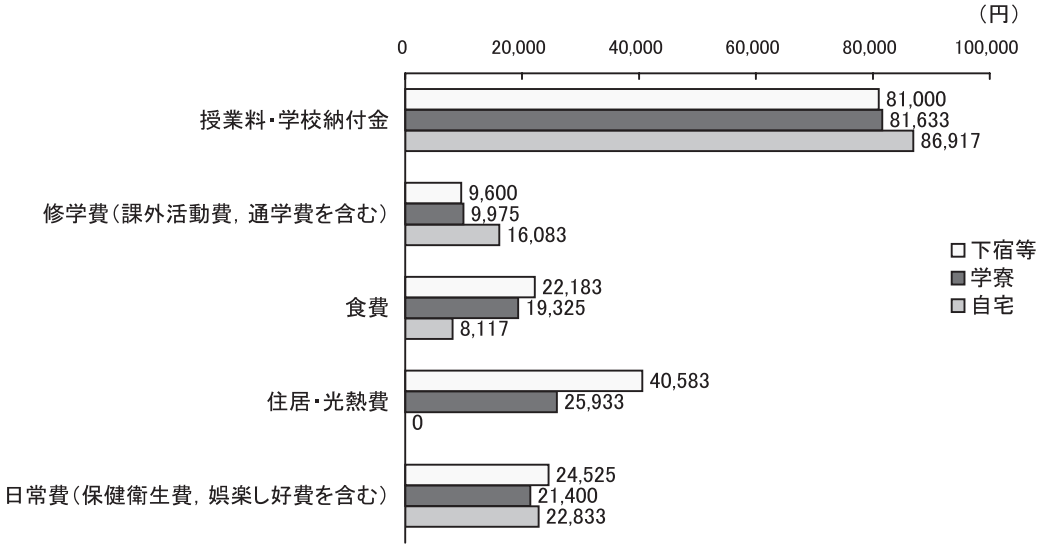
E 表　居住形態別学生生活費

（単位：円）

区分			自宅	学寮	下宿等
大学	昼間部	国立	1,085,600 (100)	1,306,200 (120)	1,709,800 (157)
		公立	1,083,500 (100)	1,274,500 (117)	1,641,000 (151)
		私立	1,692,700 (156)	2,060,300 (190)	2,363,200 (218)
		平均	1,607,400	1,899,200	2,134,700
大学院	修士課程	国立	1,158,000 (100)	1,405,800 (121)	1,865,200 (161)
		公立	1,265,800 (109)	1,341,800 (116)	1,944,800 (168)
		私立	1,600,500 (138)	1,895,100 (164)	2,353,000 (203)
		平均	1,392,400	1,462,800	1,999,200
	博士課程	国立	1,606,600 (100)	1,770,200 (110)	2,249,400 (140)
		公立	1,665,800 (104)	1,513,400 (94)	2,374,600 (148)
		私立	1,921,000 (120)	2,270,900 (141)	2,686,400 (167)
		平均	1,715,700	1,783,800	2,342,300
	専門職学位課程	国立	1,529,200 (100)	1,584,100 (104)	2,184,500 (143)
		公立	1,354,500 (89)	1,312,000 (86)	1,962,000 (128)
		私立	2,127,400 (139)	2,378,700 (156)	2,875,600 (188)
		平均	1,958,100	1,910,800	2,584,200

（注）（　　）は，国立の自宅を基準（100）とした場合の指数である。

第２図　居住形態別学生生活費の支出状況（月額）　〔大学昼間部平均〕



（注）自宅生は住居・光熱費のデータなし。

（6）地域別・居住形態別学生生活費（F表，第3図）

大学昼間部について学生生活費を地域別に比較すると，国・公・私立全体の平均では，東京圏（「東京圏」とは，東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう）が最も高く，以下京阪神（「京阪神」とは，京都府・大阪府・兵庫県をいう），その他の地域の順となっている。設置者別・居住形態別にみると，最も高いのは私立の東京圏の下宿等通学者で約 249 万円となっている。

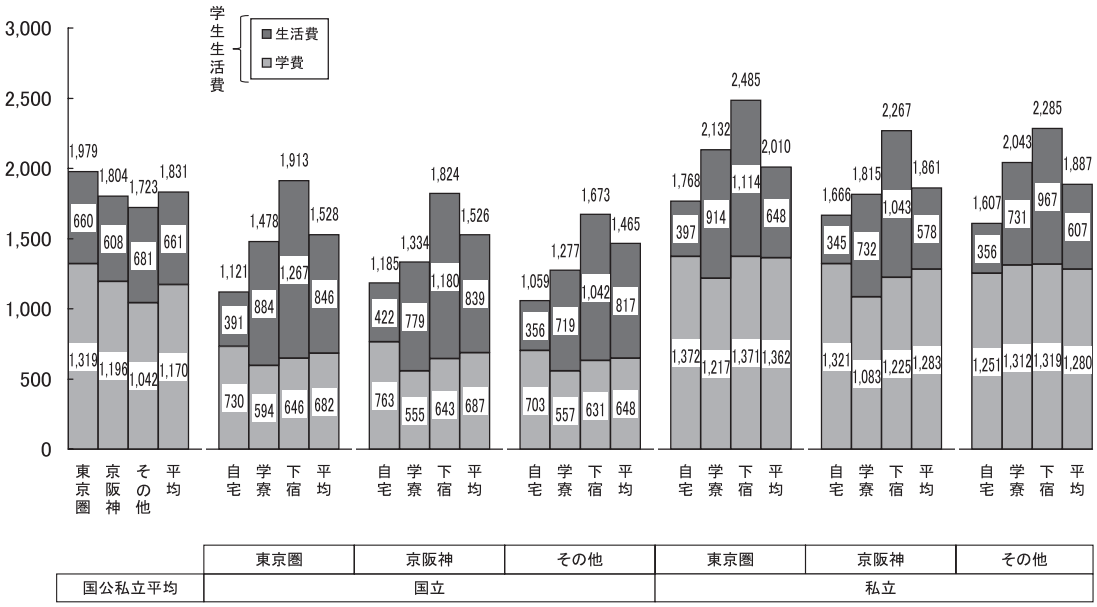
Ｆ表　地域別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）

（単位：円）

区分		東京圏			京阪神			その他			全国平均		
		学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計
国公私立平均		1,319,100	659,800	1,978,900	1,195,700	608,000	1,803,700	1,041,900	680,700	1,722,600	1,170,000	660,500	1,830,500
国立	自宅	730,400	390,900	1,121,300	763,000	421,600	1,184,600	702,900	355,900	1,058,800	715,300	370,300	1,085,600
	学寮	594,000	884,100	1,478,100	555,200	779,200	1,334,400	557,300	719,200	1,276,500	561,200	745,000	1,306,200
	下宿	646,400	1,266,700	1,913,100	643,300	1,180,200	1,823,500	631,100	1,041,900	1,673,000	633,800	1,076,000	1,709,800
	平均	681,600	846,300	1,527,900	686,800	839,400	1,526,200	648,400	816,500	1,464,900	656,600	822,400	1,479,000
公立	自宅	755,100	386,700	1,141,800	728,700	361,800	1,090,500	726,800	349,400	1,076,200	729,000	354,500	1,083,500
	学寮	635,000	1,190,000	1,825,000	664,000	626,800	1,290,800	590,200	665,300	1,255,500	606,400	668,100	1,274,500
	下宿	611,600	1,193,500	1,805,100	635,200	1,052,900	1,688,100	640,300	988,500	1,628,800	638,800	1,002,200	1,641,000
	平均	689,500	757,200	1,446,700	690,800	633,700	1,324,500	670,300	748,000	1,418,300	674,300	731,800	1,406,100
私立	自宅	1,371,700	396,600	1,768,300	1,321,000	344,700	1,665,700	1,251,200	355,800	1,607,000	1,320,400	372,300	1,692,700
	学寮	1,217,300	914,400	2,131,700	1,083,100	732,100	1,815,200	1,312,200	730,600	2,042,800	1,243,200	817,100	2,060,300
	下宿	1,370,700	1,114,300	2,485,000	1,224,700	1,042,700	2,267,400	1,318,700	966,500	2,285,200	1,322,700	1,040,500	2,363,200
	平均	1,362,200	647,800	2,010,000	1,283,100	577,900	1,861,000	1,280,200	606,700	1,886,900	1,316,800	619,300	1,936,100

（注）「東京圏」とは，東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。
「京阪神」とは，京都府・大阪府・兵庫県をいう。

第３図　地域別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）　（単位：千円）



（7）男女別･居住形態別学生生活費（G表）

大学昼間部について居住形態別の学生生活費を男女別にみると，国立では，女子が男子を自宅通学者で５千円(男子約 108 万４千円,女子約 108 万９千円)，下宿等通学者で約２万６千円（男子約 170 万円，女子約 172 万７千円）上回っている。

また，私立では，女子が男子を自宅通学者で約３万４千円（男子約 167 万５千円，女子約 170 万９千円）上回っているが，一方，下宿等通学者では男子が女子を３千円（男子約 236 万４千円，女子約 236 万２千円）上回っている。

Ｇ表　男女別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）　（単位：円）

区分			学費			生活費			合計
			授業料 学校納付金	修学費 課外活動費 通学費	小計	食費 住居・ 光熱費	保健衛生費 娯楽し好費 その他の日常費	小計	
国立	男	自宅	516,700	194,700	711,400	114,700	257,400	372,100	1,083,500
		学寮	455,100	102,300	557,400	469,100	261,400	730,500	1,287,900
		下宿等	519,600	115,300	634,900	794,800	270,700	1,065,500	1,700,400
	女	自宅	509,300	211,700	721,000	91,300	276,400	367,700	1,088,700
		学寮	440,600	126,500	567,100	437,700	331,200	768,900	1,336,000
		下宿等	515,100	116,600	631,700	778,100	316,700	1,094,800	1,726,500
私立	男	自宅	1,117,700	184,100	1,301,800	106,000	267,400	373,400	1,675,200
		学寮	1,074,400	113,800	1,188,200	523,600	215,600	739,200	1,927,400
		下宿等	1,232,700	111,400	1,344,100	737,900	282,400	1,020,300	2,364,400
	女	自宅	1,139,200	199,100	1,338,300	88,100	283,000	371,100	1,709,400
		学寮	1,164,000	132,100	1,296,100	608,000	283,900	891,900	2,188,000
		下宿等	1,174,600	121,700	1,296,300	746,100	319,500	1,065,600	2,361,900

（8）学年別の学生生活費（H表）

学費は学年間で大きな差は見られないが，生活費は高学年になるにつれて高くなる傾向にある。なお，大学昼間部の第 5，6 学年については医・歯学部，獣医学部（第 5 学年は薬学部も含む）の学生であり，第 4 学年に比較して学費，生活費とも高くなっている。

Ｈ表　学年別の学生生活費

（単位：円）

区分			1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	6　年
大学	昼間部	学　費	1,186,000	1,164,700	1,158,200	1,126,800	2,241,800	2,025,400
		生活費	539,400	658,300	683,100	740,400	882,700	1,188,900
		計	1,725,400	1,823,000	1,841,300	1,867,200	3,124,500	3,214,300
短期大学	昼間部	学　費	1,121,700	1,109,700	1,054,000	…	…	…
		生活費	458,700	492,300	537,000	…	…	…
		計	1,580,400	1,602,000	1,591,000	…	…	…
大学院	修士課程	学　費	810,700	792,700	…	…	…	…
		生活費	895,200	968,400	…	…	…	…
		計	1,705,900	1,761,100	…	…	…	…
	博士課程	学　費	761,000	795,700	790,700	901,000	…	…
		生活費	1,233,700	1,339,300	1,359,700	1,899,300	…	…
		計	1,994,700	2,135,000	2,150,400	2,800,300	…	…
	専門職学位課程	学　費	1,280,400	1,183,900	1,252,600	…	…	…
		生活費	996,800	991,900	1,017,700	…	…	…
		計	2,277,200	2,175,800	2,270,300	…	…	…

2．学生の収入の状況（Ｉ表，第４図）

学生生活費は，家庭からの給付，奨学金及びアルバイト収入等で賄われているが，上級課程へ進むほど，家庭からの給付額が少なくなるなど収入構成に差異がある。その状況はＩ表，第 4 図のとおりである。

①大学昼間部等

大学昼間部の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約 123 万円（月額約 10 万 2 千円）であり，収入総額（約 199 万円）に占める家庭からの給付額の割合は 61.7％となり，前回調査に比べ 4.2 ポイント下回っている。家庭からの給付額を設置者別にみると，私立が国立に比べ約 34 万円上回っている。男女別にみると，女子が男子を約 4 万円上回っている。

なお，アルバイトによる収入は平均約 31 万円で，収入総額に占める割合は 15.4％と，前回調査時に比べ 0.9 ポイント下回っている。

短期大学昼間部については，家庭からの給付額は約 99 万円（月額約 8 万 3 千円）で，収入総額（約 175 万円）に占める割合は 56.7％となっている。

②大学院

修士課程の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約 93 万円（月額約 7 万 8 千円）であり，収入総額（約 197 万円）に占める家庭からの給付額の

割合は 47.4%となっている。

博士課程の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約 38 万円（月額約 3 万 2 千円）であり，収入総額（約 268 万円）に占める割合は 14.1%と低い。なお，奨学金及びアルバイト収入の占める割合は，家庭からの給付額が低いこともあって，61.9%と高くなっている。

専門職学位課程の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約 104 万円（月額約 8 万 7 千円）であり，収入総額（約 259 万円）に占める家庭からの給付額の割合は 40.1%となっている。

Ⅰ表　収入及びその構成割合

（単位：円）

区分		家庭からの給付	奨学金	アルバイト	定職・その他	収入総額
大学昼間部	国立	(60.0)	(20.7)	(16.4)	(2.8)	(100.0)
		970,700	335,300	265,500	45,700	1,617,200
	公立	(54.7)	(24.2)	(18.3)	(2.8)	(100.0)
		854,300	377,300	284,900	44,000	1,560,500
	私立	(62.3)	(20.0)	(15.1)	(2.5)	(100.0)
		1,308,700	419,600	317,700	53,200	2,099,200
	男	(61.0)	(20.6)	(15.8)	(2.5)	(100.0)
		1,207,100	406,900	313,200	50,100	1,977,300
	女	(62.5)	(19.9)	(15.0)	(2.6)	(100.0)
		1,250,000	398,100	300,000	52,900	2,001,000
	平均	(61.7)	(20.3)	(15.4)	(2.6)	(100.0)
		1,227,500	402,700	306,900	51,400	1,988,500
短期大学昼間部		(56.7)	(24.8)	(14.6)	(3.8)	(100.0)
		993,100	434,400	255,800	66,900	1,750,200
大学院	修士課程	(47.4)	(28.1)	(13.5)	(10.9)	(100.0)
		932,100	552,500	266,400	215,200	1,966,200
	博士課程	(14.1)	(37.0)	(24.9)	(24.0)	(100.0)
		378,800	991,500	668,600	642,600	2,681,500
	専門職学位課程	(40.1)	(30.8)	(4.0)	(25.1)	(100.0)
		1,039,700	796,800	104,100	649,100	2,589,700

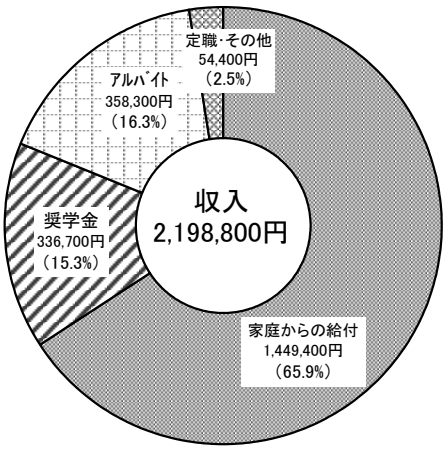
（注）1．（　　）は，収入総額に占める割合である。

2．大学院のアルバイトには，ティーチングアシスタント（ＴＡ）及びリサーチアシスタント（ＲＡ）を含む。

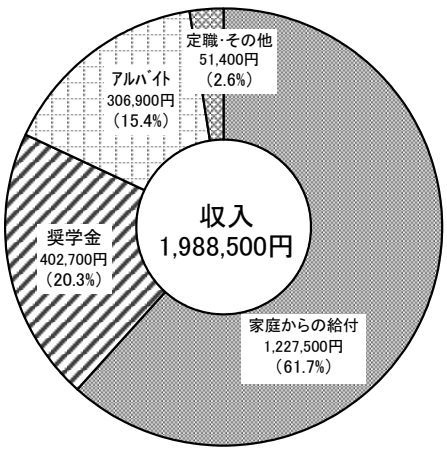
第４図　収入額内訳

平成20年度　　平成22年度

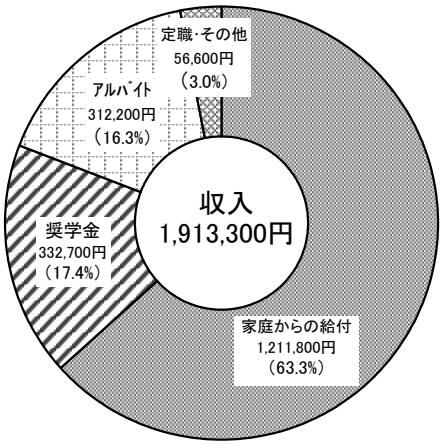
【大学昼間部】



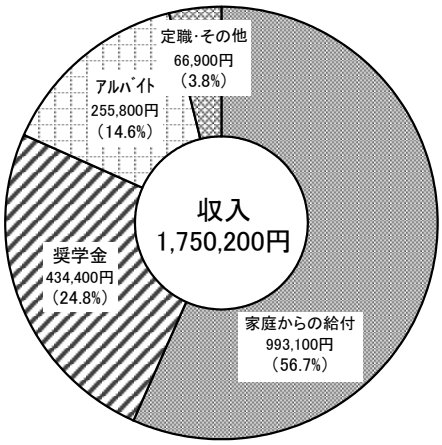
⇨



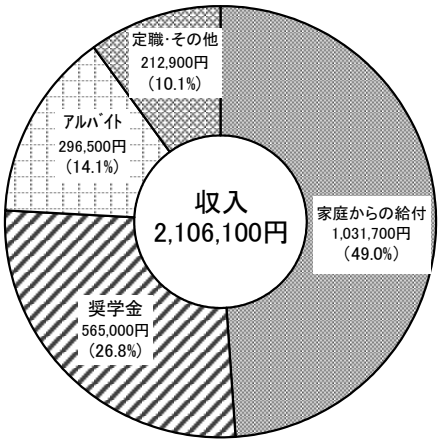
【短期大学昼間部】



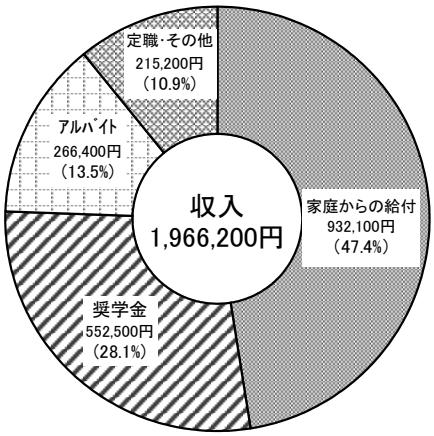
⇨



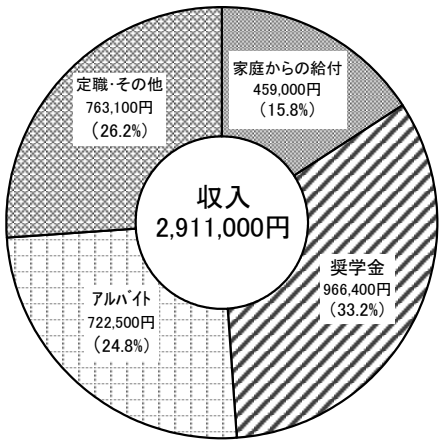
【大学院修士課程】



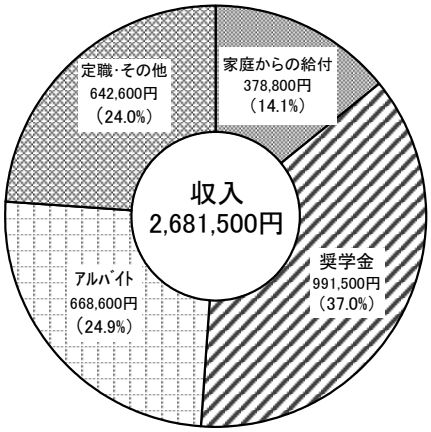
⇨



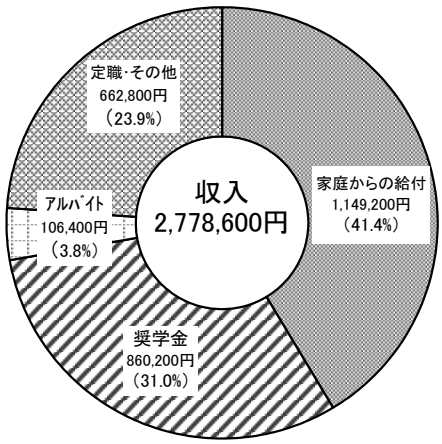
【大学院博士課程】



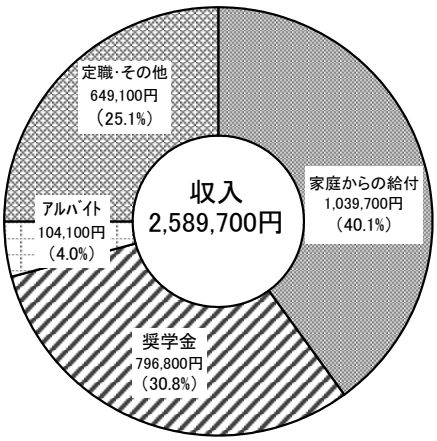
⇨



【大学院専門職学位課程】



⇨



3．家庭からの給付額等

（1）家庭からの給付（J表，K表）

大学・短期大学の昼間部における家庭からの給付は，その額では大学（約 122 万 8 千円）が短期大学（約 99 万 3 千円）に比べ約 23 万円多く，学生生活費に占める割合も大学が 67.1%，短期大学が 62.4%で，大学が短期大学を 4.7 ポイント上回っている。

一方，大学院の学生生活費に占める家庭からの給付割合は，修士課程が 53.8%，博士課程が 17.9%，専門職学位課程が 46.3%と大学・短期大学の昼間部に比べ低くなっている。

また，家庭の年間収入に占める家庭からの給付額の割合は，大学昼間部が 15.4%，大学院修士課程が 11.7%，博士課程が 5.1%，専門職学位課程が 11.9%で，いずれも前回調査よりも減少している。

（2）家庭の年間平均収入（K表）

学生の家庭の年間平均収入を設置者別にみると，大学と短期大学では私立が高い傾向にある。大学昼間部では私立が国立に比べ約 2 万円高くなっている。

大学院では，博士課程で私立が国立に比べ約 85 万円高くなっているが，一方，修士課程，専門職学位課程では，国立が私立に比べそれぞれ約 1 万円，約 40 万円高くなっている。

J 表　家庭からの給付額の推移

（単位：円）

区分		年度	平成 14 年度	平成 16 年度	平成 18 年度	平成 20 年度	平成 22 年度
大学昼間部		家庭からの給付額	1,556,700	1,449,200	1,496,300	1,449,400	1,227,500
		給付額／学生生活費 ×100	77.2%	74.7%	79.0%	78.0%	67.1%
短期大学昼間部		家庭からの給付額	1,353,400	1,253,600	1,269,000	1,211,800	993,100
		給付額／学生生活費 ×100	75.8%	75.3%	77.4%	76.7%	62.4%
大学院	修士課程	家庭からの給付額	1,098,300	1,046,300	1,060,900	1,031,700	932,100
		給付額／学生生活費 ×100	60.2%	59.0%	60.6%	59.2%	53.8%
	博士課程	家庭からの給付額	539,800	526,800	521,200	459,000	378,800
		給付額／学生生活費 ×100	25.0%	25.0%	25.0%	22.4%	17.9%
	専門職学位課程	家庭からの給付額	…	…	1,139,500	1,149,200	1,039,700
		給付額／学生生活費 ×100	…	…	49.4%	51.7%	46.3%

Ｋ表　家庭の年間平均収入

（単位：千円）

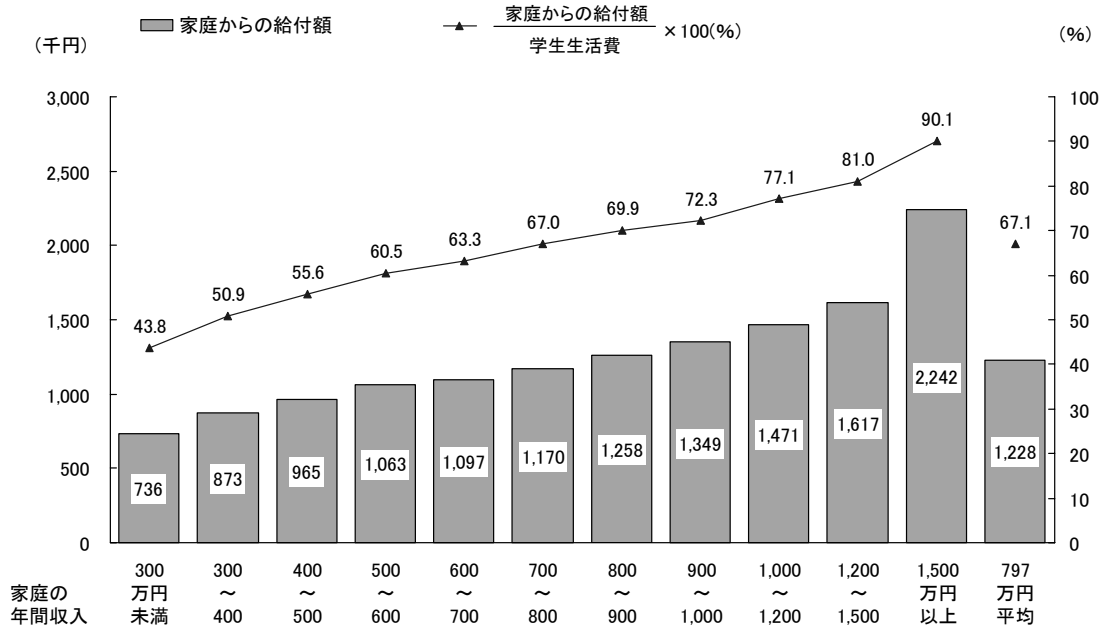
区分		大学		短期大学		大学院		
		昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程
22年度	国立	7,990	5,680	…	…	8,010	7,290	8,990
	公立	7,120	5,840	5,960	4,780	7,110	6,450	9,010
	私立	8,010	6,330	6,360	5,430	8,000	8,140	8,590
	平均	(△3.0)	(△10.9)	(△4.4)	(△8.5)	(△1.9)	(△0.1)	(△0.5)
		7,970	6,160	6,330	5,250	7,950	7,450	8,730
参考	平成20年	(△2.8)	(0.0)	(△6.5)	(6.5)	(1.5)	(△4.1)	(2.8)
		8,220	6,910	6,620	5,740	8,100	7,460	8,770
	平成18年	(0.5)	(1.3)	(△7.1)	(△13.2)	(△4.0)	(△3.2)	
		8,460	6,910	7,080	5,390	7,980	7,780	8,530
	平成16年	(△6.1)	(△3.1)	(0.8)	(△16.1)	(△6.9)	(△0.9)	
		8,420	6,820	7,620	6,210	8,310	8,040	…
	平成14年	(△5.9)	(△12.9)	(△8.8)	(△3.6)	(△2.6)	(△12.1)	
		8,970	7,040	7,560	7,400	8,930	8,110	…

（注）（　　）は，前回調査に対する伸び率（%）である。

（3）家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合（第5図）

大学昼間部について家庭の収入額と家庭からの給付額の関係をみると，おおむね家庭の収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く，また，学生生活費に占める家庭からの給付額の割合も高くなっている。

第５図　家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合（大学昼間部）



（4）家庭の収入階層区分別学生数の割合（L表）

大学昼間部の家庭の年間収入額別学生数の割合を，総務省の家計調査（平成22年）から全国全世帯の45～54歳の世帯主（学生の家庭の世帯主年齢と想定）を抜き出し，五分位階層区分（集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ，その世帯数を5等分したもので，収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したもの）を推計し，これに今回調査を当てはめて各区分別学生数をみると，国・公・私立いずれも第Ⅲ五分位に最も高い分布を示している。また，国・公・私立いずれも第Ⅴ五分位に最も低い分布を示している。

Ｌ表　家庭の収入階層区分別学生数の割合【４５～５４歳の世帯主】（大学昼間部）

（単位：％）

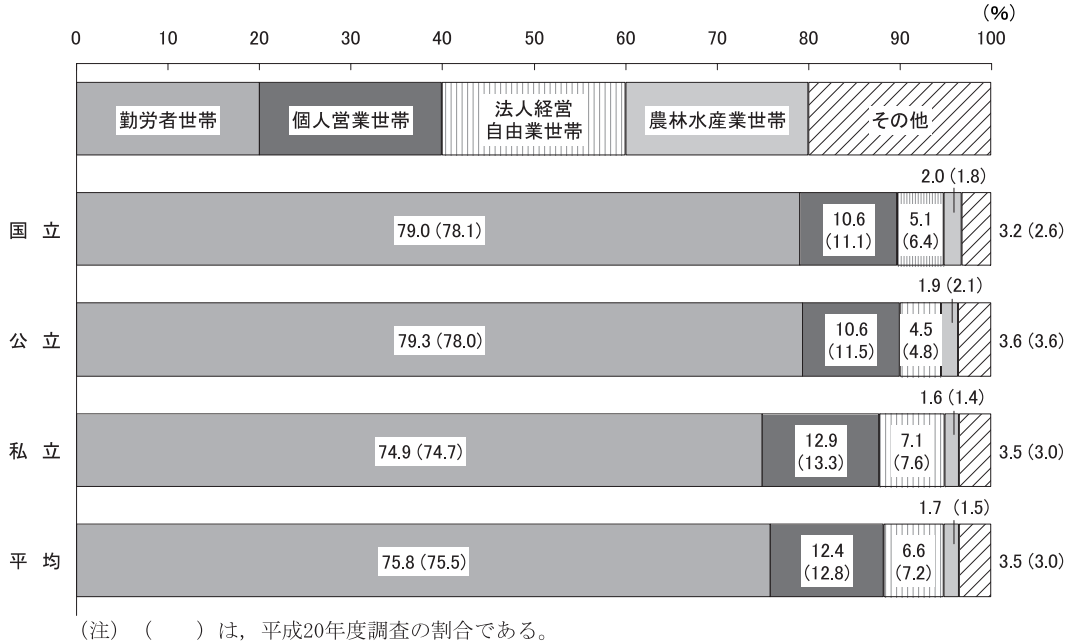
区　分	第Ⅰ五分位 千円 （～5,083） 4,948千円未満	第Ⅱ五分位 千円 （5,083～6,871） 4,948千円以上 6,567千円未満	第Ⅲ五分位 千円 （6,871～8,535） 6,567千円以上 8,250千円未満	第Ⅳ五分位 千円 （8,535～10,924） 8,250千円以上 10,571千円未満	第Ⅴ五分位 千円 （10,924～） 10,571千円以上
国　立	(26.3) 21.4	(13.4) 17.7	(29.6) 24.9	(17.5) 18.7	(13.1) 17.3
公　立	(29.1) 24.2	(15.5) 21.0	(29.3) 25.7	(15.2) 17.6	(11.0) 11.5
私　立	(24.6) 21.1	(13.2) 17.8	(20.5) 23.3	(27.4) 21.7	(14.3) 16.2
平　均	(25.1) 21.3	(13.3) 17.9	(22.5) 23.7	(25.1) 21.0	(14.0) 16.2

（注）（　　）は，平成20年度調査の額及び割合である。

（5）主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合（第6図）

大学昼間部の場合，国・公・私立いずれも勤労者世帯の学生数が多く，74.9～79.3％を占めている。

第６図　主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合（大学昼間部）



（注）（　　）は，平成20年度調査の割合である。

4．アルバイトの従事状況

（1）アルバイトの従事状況（M表，N表，第7図）

調査時前の１年間にアルバイトに従事した経験を有する者の全学生に対する割合等の状況は，次のとおりである。

①大学昼間部

アルバイト従事者は，全学生の 73.1％となっており，平成 20 年度調査と比較して 4.5 ポイント減となっている。これらの者の経済状況を示したのが第７図である。「家庭からの給付なし」の者が 7.1％，「家庭からの給付のみでは修学に不自由，修学継続困難」な者が 48.0％，「家庭からの給付のみで修学可能」であるがアルバイトに従事したとする者が 44.9％となっている。

②大学院

アルバイト従事者は，全学生のうち，修士課程が 78.1％，博士課程が 74.5％，専門職学位課程が 28.4％で，これらのうち，「家庭からの給付なし」の者がそれぞれ 14.2％，49.0％，22.5％，「家庭からの給付のみでは修学に不自由・修学継続困難」な者がそれぞれ 50.6％，38.6％，53.0％となっている。

修士課程で 64.8％，博士課程で 87.6％，専門職学位課程で 75.5％の者が，修学上やむを得ずアルバイトに従事していることが伺える。

Ｍ表　アルバイトの従事状況

（単位：％）

区分				18年度	20年度	22年度
大学昼間部		アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	41.1	39.9	32.8
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	35.4	37.6	40.3
			計	76.4	77.6	73.1
		アルバイト非従事者		23.6	22.4	26.9
大学院	修士課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	31.7	31.0	27.5
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	47.2	49.6	50.6
			計	78.9	80.5	78.1
		アルバイト非従事者		21.1	19.5	21.9
	博士課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	12.2	11.2	9.3
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	65.4	64.8	65.2
			計	77.6	75.9	74.5
		アルバイト非従事者		22.4	24.1	25.5
	専門職学位課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	8.8	8.8	7.0
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	19.8	19.1	21.5
			計	28.7	27.9	28.4
		アルバイト非従事者		71.3	72.1	71.6

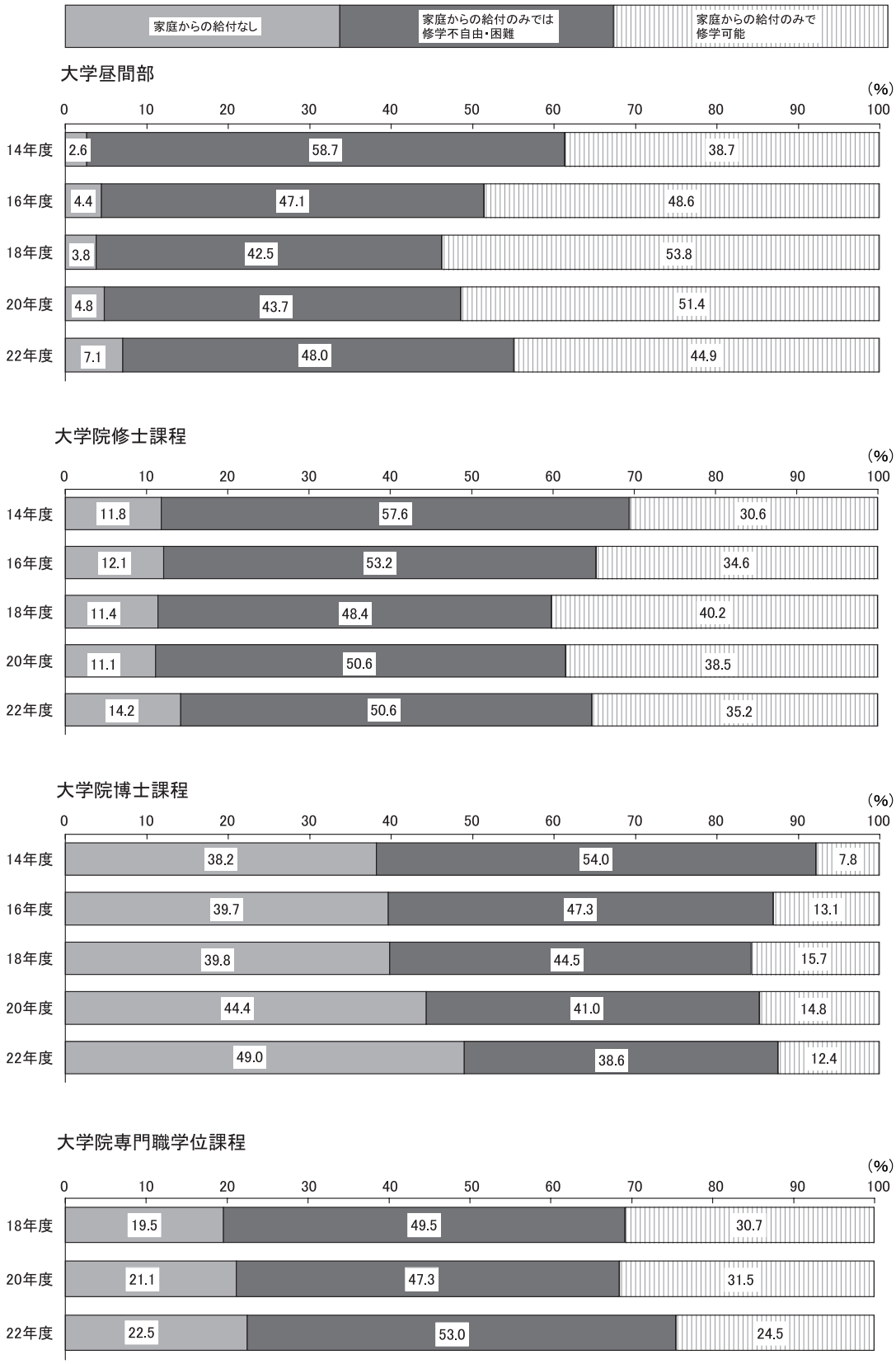
（注）１．「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難」とは，家庭からの給付がない者を含む。
　　２．大学院は，ティーチングアシスタント（ＴＡ）及びリサーチアシスタント（ＲＡ）従事者を含む。

Ｎ表　アルバイト従事者の経済状況

区分			全学生のうち アルバイト従事者	家庭からの給付なし，給付のみでは修学に不自由・困難	家庭からの給付のみで修学可能
大学昼間部		国立	72.4　(77.4)　％	53.0　(49.9)　％	47.0　(50.1)　％
		公立	73.1　(81.7)	57.7　(52.5)	42.3　(47.5)
		私立	73.2　(77.3)	55.4　(48.1)	44.6　(51.9)
		平均	73.1　(77.6)	55.1　(48.5)	44.9　(51.4)
大学院	修士課程	国立	77.0　(80.3)	64.0　(61.6)	36.0　(38.4)
		公立	72.9　(74.2)	67.6　(66.3)	32.4　(33.6)
		私立	80.8　(81.9)	65.6　(60.4)	34.4　(39.4)
		平均	78.1　(80.5)	64.8　(61.6)	35.2　(38.5)
	博士課程	国立	74.5　(77.0)	88.3　(86.0)	11.7　(13.9)
		公立	69.1　(64.4)	90.9　(89.9)	9.1　(10.2)
		私立	75.5　(75.5)	84.8　(82.1)	15.2　(17.9)
		平均	74.5　(75.9)	87.6　(85.4)	12.4　(14.8)
	専門職学位課程	国立	27.7　(26.6)	73.3　(61.7)	26.7　(38.3)
		公立	36.5　(29.6)	76.6　(75.0)	23.4　(24.7)
		私立	28.3　(28.5)	76.4　(70.9)	23.6　(29.1)
		平均	28.4　(27.9)	75.5　(68.5)	24.5　(31.5)

（注）１．「家庭からの給付なし，給付のみでは修学に不自由・困難」，「家庭からの給付のみで修学可能」欄の数字は，58頁（H-1表），86頁（H-1表，H-2表），87頁（H-3表）を基に全学生のうちアルバイト従事者を，100とした割合である。
　　２．（　　）は，平成20年度調査における割合である。
　　３．大学院は，ティーチングアシスタント（ＴＡ）及びリサーチアシスタント（ＲＡ）従事者を含む。

第７図　家庭からの給付程度別アルバイトの従事学生の割合の推移



（注）大学院は，ティーチングアシスタント（TA）及びリサーチアシスタント（RA）従事者を含む。

（2）アルバイト従事時期別学生数の割合（O表，第8図）

①大学昼間部

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は 93.7%となっている。

②大学院

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は，修士課程が 91.6%，博士課程は 91.3%，専門職学位課程は 80.1%となっている。

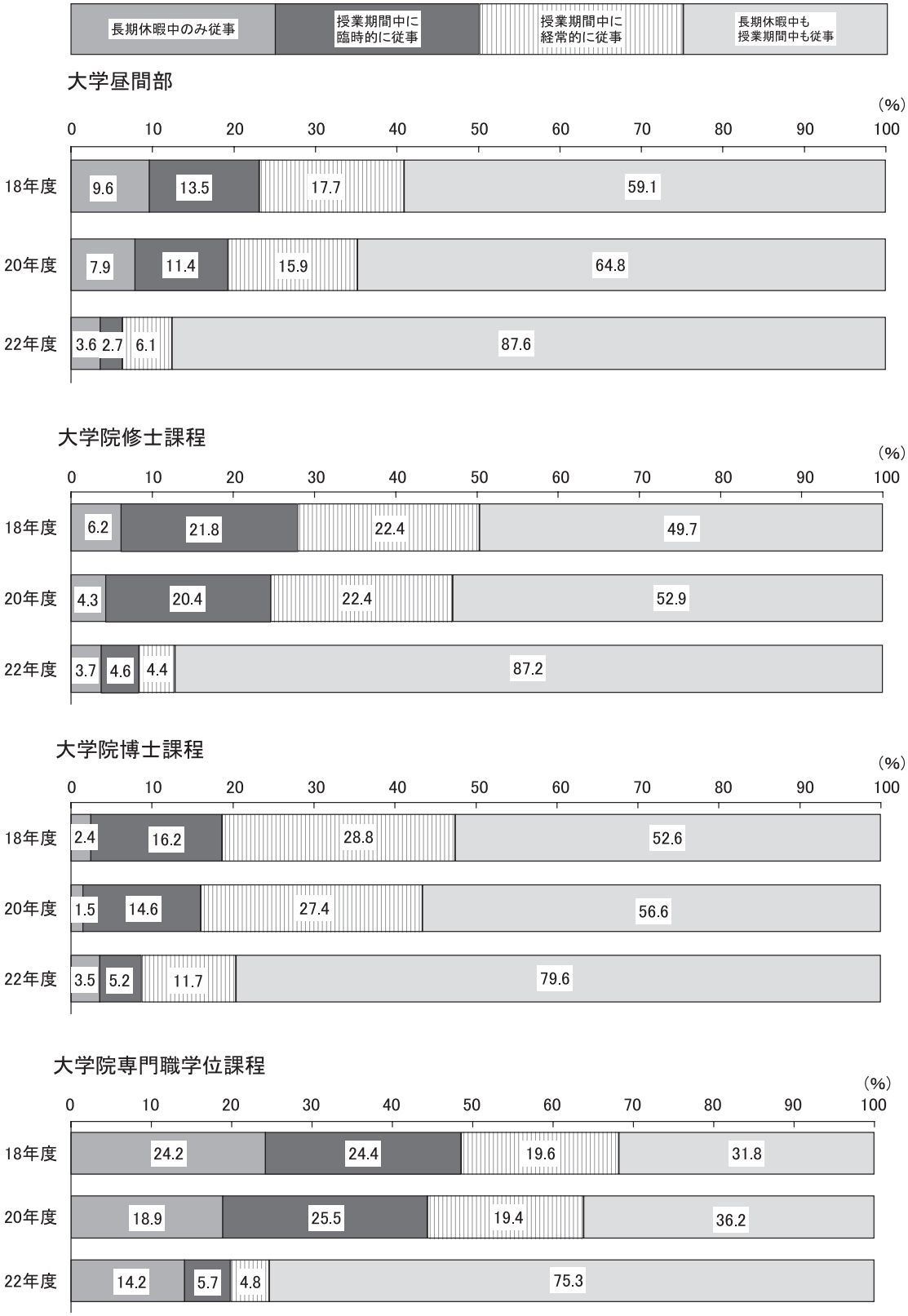
O表　アルバイト従事時期別学生数の割合

（単位：%）

区分			長期休暇中のみ従事	授業期間中に臨時的に従事	授業期間中に経常的に従事	長期休暇中も授業期間中も従事	
大学昼間部		国立	3.6 (7.0)	3.3 (12.8)	5.8 (17.1)	87.3 (63.0)	93.1 (80.1)
		公立	3.3 (6.4)	3.4 (11.1)	5.5 (15.7)	87.8 (66.8)	93.3 (82.5)
		私立	3.6 (8.2)	2.6 (11.1)	6.2 (15.6)	87.6 (65.1)	93.8 (80.7)
		平均	3.6 (7.9)	2.7 (11.4)	6.1 (15.9)	87.6 (64.8)	93.7 (80.7)
大学院	修士課程	国立	3.3 (3.6)	5.3 (22.4)	4.1 (19.6)	87.4 (54.5)	91.5 (74.1)
		公立	4.1 (3.8)	4.7 (19.6)	4.6 (18.7)	86.6 (57.9)	91.2 (76.6)
		私立	4.4 (5.4)	3.7 (17.3)	5.0 (27.4)	87.0 (49.9)	92.0 (77.3)
		平均	3.7 (4.3)	4.6 (20.4)	4.4 (22.4)	87.2 (52.9)	91.6 (75.3)
	博士課程	国立	3.6 (1.2)	6.1 (14.8)	12.0 (25.6)	78.3 (58.3)	90.3 (83.9)
		公立	3.7 (1.8)	3.7 (16.6)	7.3 (26.8)	85.3 (54.7)	92.6 (81.5)
		私立	3.5 (2.1)	3.5 (13.4)	11.8 (32.6)	81.3 (51.9)	93.1 (84.5)
		平均	3.5 (1.5)	5.2 (14.6)	11.7 (27.4)	79.6 (56.6)	91.3 (84.0)
	専門職学位課程	国立	18.6 (16.5)	8.3 (29.2)	5.7 (17.7)	67.4 (36.5)	73.1 (54.2)
		公立	18.5 (24.5)	12.1 (20.2)	2.2 (22.7)	67.2 (32.5)	69.4 (55.2)
		私立	11.9 (19.7)	4.1 (24.0)	4.6 (20.0)	79.4 (36.2)	84.0 (56.2)
		平均	14.2 (18.9)	5.7 (25.5)	4.8 (19.4)	75.3 (36.2)	80.1 (55.6)

（注）1．（　　）は，平成 20 年度調査における割合である。
2．大学院は，ティーチングアシスタント（ＴＡ）及びリサーチアシスタント（ＲＡ）従事者を含まない。

第８図　アルバイト従事時期別学生数の割合の推移



（注）大学院は，ティーチングアシスタント（ＴＡ）及びリサーチアシスタント（ＲＡ）従事者を含まない。

（3）アルバイト従事職種別学生数の割合（P表）

アルバイトに従事した職種別の学生数の割合は，Ｐ表にみられるように，学校種別によって大きく異なっている。

①大学昼間部等

大学昼間部では，軽労働に従事した者の割合が 72.1％を占め，次いで家庭教師に従事した者 13.1％となっている。

なお，短期大学昼間部では，軽労働に従事した者の割合が 86.5％を占めているのに対し，家庭教師に従事した者は 1.3％と，大学昼間部に比べ相当低くなっている。

②大学院

修士課程では，軽労働に従事した者の割合が 46.5％，次いで家庭教師に従事した者 22.8％，博士課程では，特殊技能・その他に従事した者の割合が 52.0％，次いで家庭教師に従事した者 20.2％，専門職学位課程では，軽労働に従事した者の割合が 34.2％，次いで家庭教師に従事した者と事務に従事した者がともに 23.0％となっている。

修士課程，専門職学位課程では，軽労働に従事する者の割合が高く，博士課程では特殊技能・その他に従事する者の割合が高くなっている。

Ｐ表　アルバイト従事職種別学生数の割合

（単位：％）

区　分		家庭教師	事　務	軽労働	重労働 危険作業	特殊技能 その他	計
大学昼間部		(12.5) 13.1	(5.4) 5.6	(71.4) 72.1	(2.1) 2.3	(8.6) 6.9	100.0
男		(12.6) 13.7	(4.5) 5.0	(71.2) 70.1	(3.5) 3.7	(8.2) 7.5	100.0
女		(12.5) 12.6	(6.3) 6.2	(71.6) 74.2	(0.5) 0.8	(9.1) 6.3	100.0
短期大学昼間部		(2.5) 1.3	(2.9) 1.6	(83.7) 86.5	(1.4) 1.5	(9.5) 9.2	100.0
大学院	修士課程	(17.8) 22.8	(6.7) 12.4	(30.4) 46.5	(1.1) 1.6	(44.1) 16.7	100.0
	博士課程	(11.2) 20.2	(5.9) 13.7	(5.4) 12.9	(0.6) 1.2	(76.8) 52.0	100.0
	専門職学位課程	(26.1) 23.0	(21.3) 23.0	(31.8) 34.2	(1.0) 2.7	(19.8) 17.1	100.0

（注）１．軽労働とは，販売，接客，調理，清掃，警備，包装，配布などである。
２．（　　）は，平成 20 年度調査の割合である。
３．大学院は，ティーチングアシスタント（ＴＡ）及びリサーチアシスタント（ＲＡ）従事者を含まない。

5. 奨学金の受給希望及び受給状況

（1）学校種別の奨学金受給希望・受給状況（第9図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構，地方公共団体，民間団体，学校からの奨学金受給者をいう）の割合をみると，第９図のとおりとなっている。

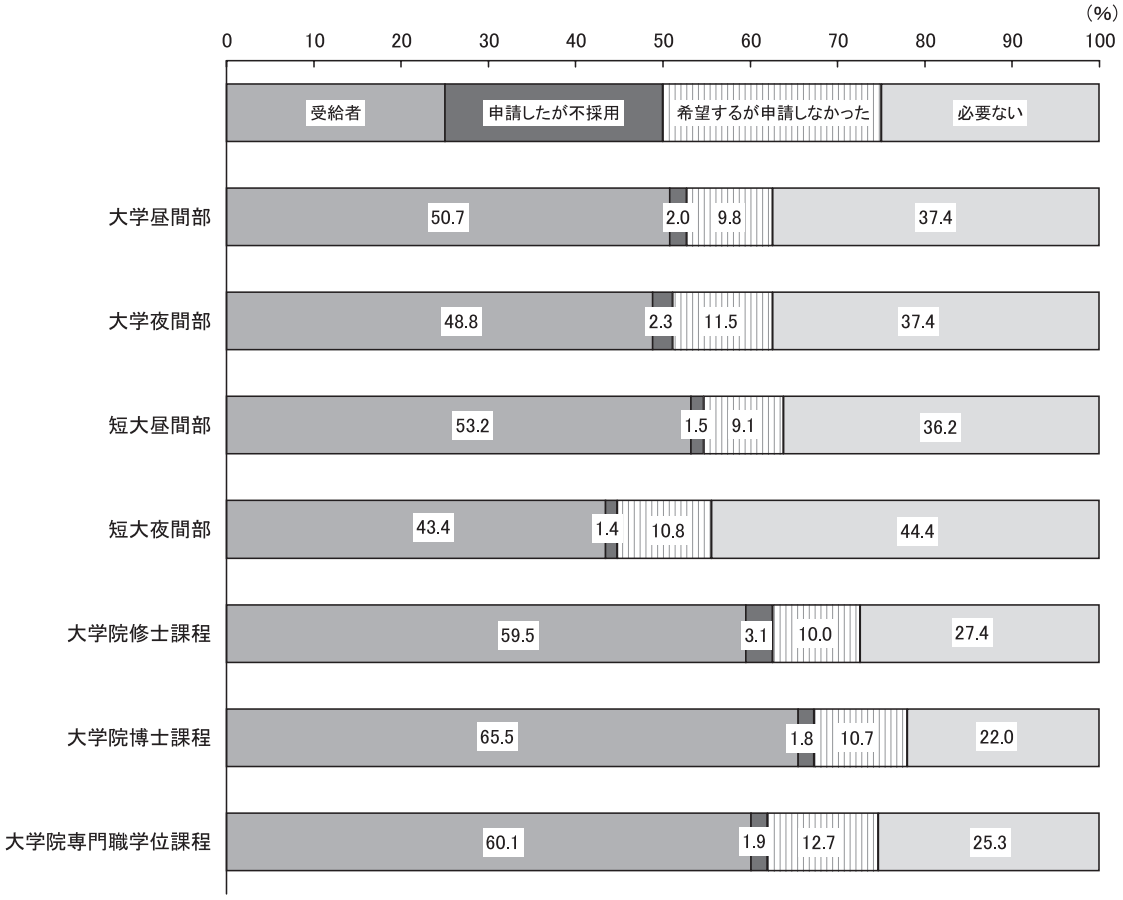
①大学昼間部

奨学金受給者は 50.7%，申請したが不採用となった者は 2.0%であり，両者を合わせた 52.7%の者が奨学金受給希望者といえる。さらに，「奨学金の受給を希望するが申請しなかった」いわゆる潜在的な奨学金受給希望者が，9.8%となっている。これらを含めると，全学生数の約 6 割以上の者が奨学金の受給を希望していることとなる。

②大学院

奨学金受給者は，修士課程が 59.5%，博士課程が 65.5%，専門職学位課程が 60.1%となっており，大学昼間部の 50.7%に比べ高くなっている。

第９図　学校種別の奨学金受給希望・受給状況



（2）設置者別の奨学金受給希望・受給状況（第 10 図）

全学生に対する奨学金受給者の割合を設置者別にみると,第 10 図のとおりである。

①大学昼間部

奨学金受給者の割合は，公立が最も高く 53.8％で，以下私立 51.2％，国立 47.9％の順となっている。また，奨学金の申請者に対する受給者の割合は，国立 95.9％，公立 97.0％，私立 96.1％となっている。

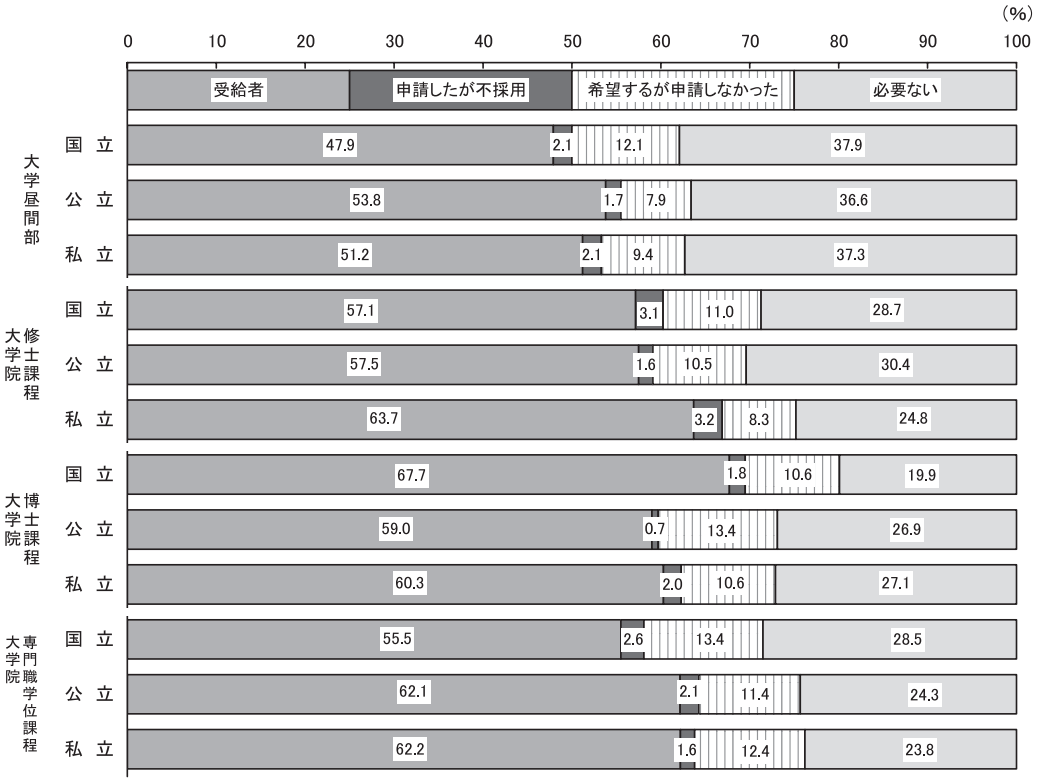
②大学院

修士課程の奨学金受給者の割合は，私立が最も高く 63.7％で，以下公立 57.5％，国立 57.1％の順となっている。なお，奨学金の申請者に対する受給者の割合は，国立 94.8％，公立 97.2％，私立 95.2％となっている。

博士課程の奨学金受給者の割合は，国立が最も高く 67.7％で，以下私立 60.3％，公立 59.0％の順となっている。なお，奨学金の申請者に対する受給者の割合は，国立 97.4％，公立 98.8％，私立 96.8％となっている。

専門職学位課程の奨学金受給者の割合は，私立が最も高く 62.2％で，以下公立 62.1％，国立 55.5％の順となっている。なお，奨学金の申請者に対する受給者の割合は，国立 95.6％，公立 96.7％，私立 97.5％となっている。

第 10 図　設置者別の奨学金受給希望・受給状況

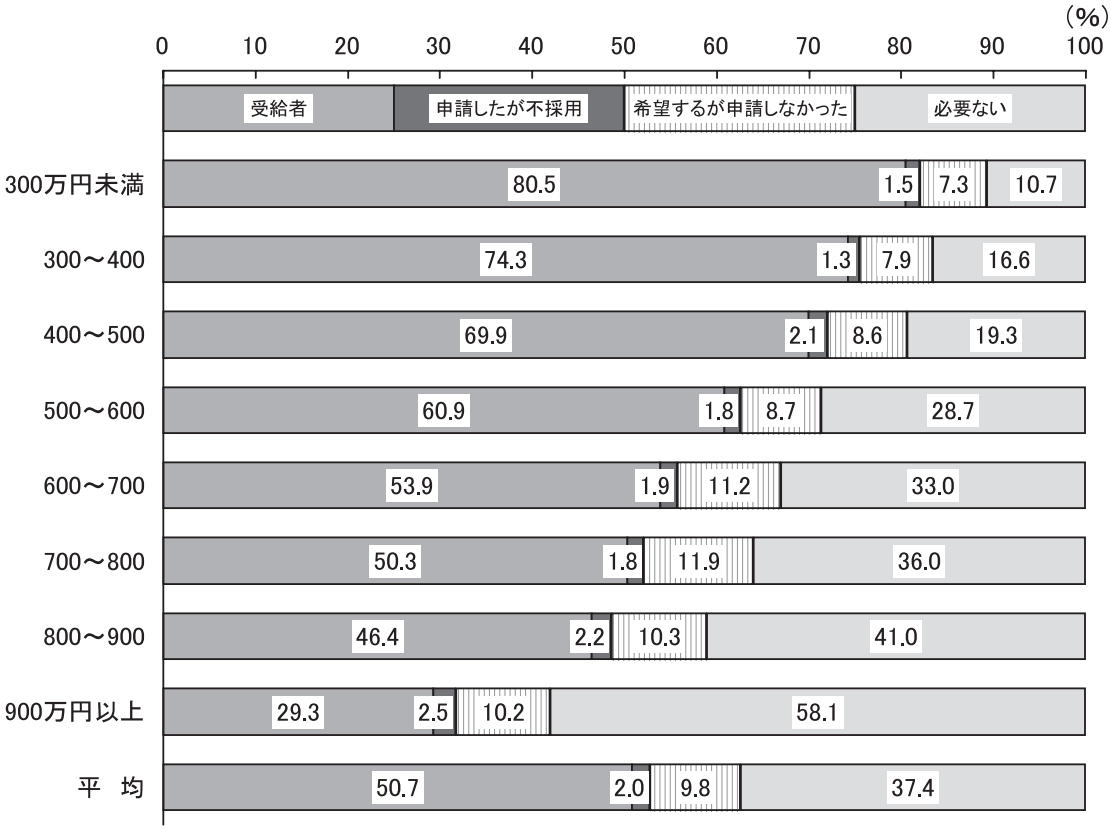


（3）家庭の所得階層別の奨学金受給希望･受給状況（第 11 図）

大学昼間部の家庭の所得階層別の奨学金受給希望及び受給状況をみると，第 11 図のとおり，学生の家庭の所得が高くなるにつれて奨学金受給者の割合は小さくなる傾向を示している。

なお,「奨学金の受給を希望するが申請をしなかった」いわゆる潜在的な奨学金希望者は，家庭の所得の高低にかかわらず，全所得階層にわたりほぼ一定の割合を占めている。

第 11 図　家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況（大学昼間部）



（4）奨学金の種類別･設置者別受給状況（第 12 図）

奨学金の種類別受給状況を設置者別にみると第 12 図のとおりである。

①大学昼間部

日本学生支援機構の奨学金受給者（日本学生支援機構以外の奨学金と両方を受給している者を含む。以下同じ）の割合は，公立が最も高く 94.3%，以下国立 92.9%，私立 91.1%の順となっている。

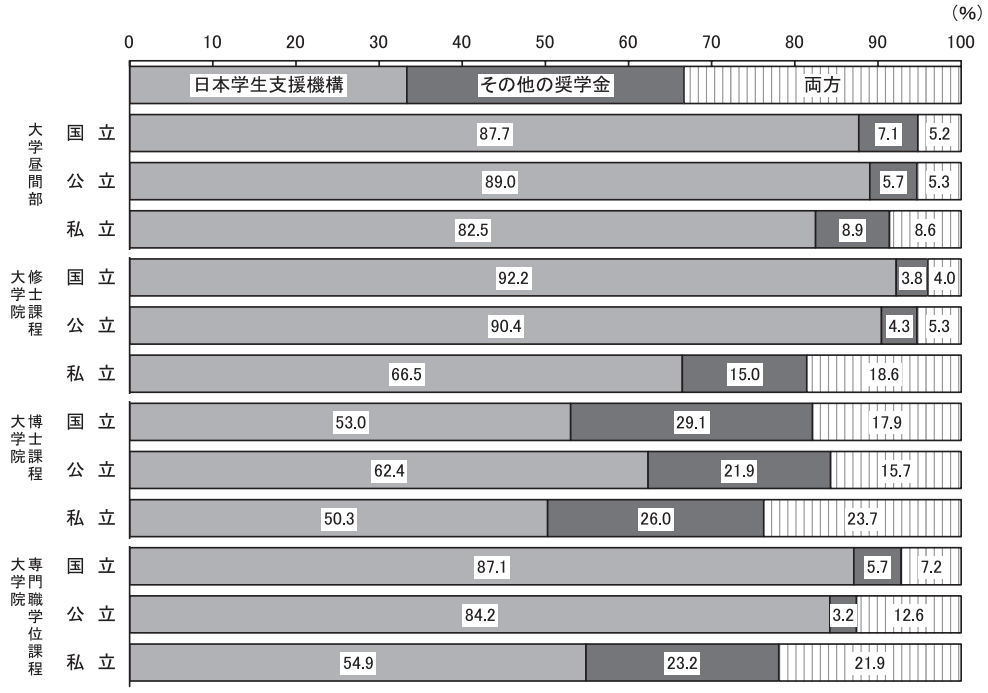
一方，日本学生支援機構以外の奨学金受給者（日本学生支援機構の奨学金と両方を受給している者を含む。以下同じ）の割合は，私立が最も高く 17.5%，以下国立 12.3%，公立 11.0%の順となっている。

②大学院

日本学生支援機構の奨学金受給者の割合は，修士課程では国立が最も高く，96.2%となっている。博士課程と専門職学位課程では公立が最も高く，それぞれ 78.1%，96.8%となっている。

一方，日本学生支援機構以外の奨学金を受給している者の割合は，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれも私立が最も高く，それぞれ 33.6%，49.7%，45.1%となっている。

第 12 図　奨学金の種類別・設置者別受給状況



6．居住形態別･地域別通学時間（Q表）

①大学昼間部

居住形態別にみると，自宅通学者の片道通学時間は約 70 分となっており，学寮通学者および下宿等通学者の約 17 分を大きく上回っている。

地域別にみると，東京圏は約 57 分，京阪神は約 53 分で，その他の地域の約 35 分に比べ通学時間が長くなっている。

②大学院

居住形態別にみると，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれも自宅通学者の片道通学時間は，学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り，それぞれ約 67 分，68 分，64 分となっている。

また，地域別にみると，東京圏，京阪神はその他の地域に比べ通学時間が長くなっている。

Q表　居住形態別・地域別通学時間（片道通学時間）

（単位：分）

区分			自宅	学寮	下宿，アパート，その他	平均
大学学部	昼間部	東京圏	75.9	26.6	24.7	56.7
		京阪神	75.2	16.6	16.5	53.1
		その他	59.6	10.1	12.8	34.6
		全　国	69.4	17.3	16.9	45.9
大学院	修士課程	東京圏	75.7	27.0	26.5	53.7
		京阪神	72.8	14.6	16.9	42.7
		その他	56.3	11.4	14.1	29.4
		全　国	66.9	15.1	17.7	39.3
	博士課程	東京圏	73.4	32.1	31.2	53.4
		京阪神	70.4	13.7	23.5	44.1
		その他	61.9	9.9	21.9	36.5
		全　国	67.9	14.9	24.7	43.2
	専門職学位課程	東京圏	67.1	15.6	34.8	54.0
		京阪神	69.4	8.6	19.4	45.5
		その他	53.3	11.0	14.6	34.6
		全　国	64.2	11.5	24.3	46.3

（注）「東京圏」とは，東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。
「京阪神」とは，京都府・大阪府・兵庫県をいう。

7．設置者別週間平均生活時間（R表）

大学昼間部について週間平均生活時間をみると，設問項目のうち，一週間の生活時間の中で最も多く費やすのは「大学の授業」となっている。

設置者別にみると，国・公・私立のいずれも「大学の授業」が最も多く，その時間は約 19～21 時間となっており，大きな差はみられない。

R表　設置者別週間平均生活時間

（単位：時間）

区分			大学の授業	大学の授業の予習・復習	大学の授業以外の学習	文化・体育等の部・サークル活動	アルバイトなどの就労活動	娯楽・交友
大学	昼間部	国立	19.89	8.26	8.04	5.61	8.35	17.88
		公立	20.80	7.60	6.77	4.59	9.14	17.56
		私立	19.13	6.29	5.02	5.98	10.12	16.66
		平均	19.35	6.70	5.63	5.85	9.76	16.92

（注）平成 22 年 11 月における不特定な一週間を調査。

ⓐ表　居住形態別・設置者別の学生生活費

区分			自宅			下宿，アパート，その他			全居住形態平均		
			学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計
大学昼間部		国立	715,300円 (3.8%)	370,300円 (0.7%)	1,085,600円 (2.8%)	633,800円 (0.9%)	1,076,000円 (△1.1%)	1,709,800円 (△0.4%)	656,600円 (1.8%)	822,400円 (0.1%)	1,479,000円 (0.9%)
		公立	729,000 (1.2%)	354,500 (△1.6%)	1,083,500 (0.2%)	638,800 (0.1%)	1,002,200 (△4.1%)	1,641,000 (△2.5%)	674,300 (0.3%)	731,800 (△1.8%)	1,406,100 (△0.8%)
		私立	1,320,400 (△1.3%)	372,300 (△4.9%)	1,692,700 (△2.1%)	1,322,700 (△2.1%)	1,040,500 (0.9%)	2,363,200 (△0.8%)	1,316,800 (△1.6%)	619,300 (△3.0%)	1,936,100 (△2.0%)
		平均	1,236,000 (△0.7%)	371,400 (△4.2%)	1,607,400 (△1.5%)	1,087,200 (△2.6%)	1,047,500 (0.0%)	2,134,700 (△1.3%)	1,170,000 (△1.1%)	660,500 (△2.3%)	1,830,500 (△1.5%)
大学院	修士課程	国立	704,200 (0.5%)	453,800 (△3.3%)	1,158,000 (△1.0%)	604,900 (△2.7%)	1,260,300 (0.1%)	1,865,200 (△0.9%)	632,500 (△1.7%)	1,000,600 (△1.0%)	1,633,100 (△1.3%)
		公立	742,200 (0.1%)	523,600 (10.1%)	1,265,800 (4.0%)	670,100 (0.3%)	1,274,700 (2.6%)	1,944,800 (1.8%)	702,400 (0.8%)	903,400 (1.5%)	1,605,800 (1.2%)
		私立	1,113,600 (0.0%)	486,900 (4.1%)	1,600,500 (1.2%)	1,053,300 (△1.5%)	1,299,700 (4.8%)	2,353,000 (1.8%)	1,086,500 (△0.5%)	822,200 (1.0%)	1,908,700 (0.2%)
		平均	916,900 (0.5%)	475,500 (1.4%)	1,392,400 (0.8%)	727,600 (△2.8%)	1,271,600 (1.4%)	1,999,200 (△0.2%)	802,300 (△0.9%)	929,800 (△0.3%)	1,732,100 (△0.6%)
	博士課程	国立	810,100 (0.4%)	796,500 (9.9%)	1,606,600 (4.9%)	669,700 (△1.1%)	1,579,700 (2.0%)	2,249,400 (1.1%)	709,700 (△0.4%)	1,335,500 (3.5%)	2,045,200 (2.1%)
		公立	828,000 (△2.6%)	837,800 (12.6%)	1,665,800 (4.5%)	756,800 (3.3%)	1,617,800 (2.9%)	2,374,600 (3.0%)	779,000 (0.2%)	1,263,500 (4.4%)	2,042,500 (2.8%)
		私立	1,097,600 (4.9%)	823,400 (14.8%)	1,921,000 (9.0%)	928,400 (△1.0%)	1,758,000 (4.2%)	2,686,400 (2.3%)	1,007,900 (1.9%)	1,314,900 (7.8%)	2,322,800 (5.2%)
		平均	907,600 (1.7%)	808,100 (11.7%)	1,715,700 (6.2%)	725,300 (△1.0%)	1,617,000 (2.5%)	2,342,300 (1.4%)	785,200 (0.1%)	1,327,000 (4.6%)	2,112,200 (2.9%)
	専門職学位課程	国立	957,000 (△0.2%)	572,200 (10.0%)	1,529,200 (3.4%)	836,300 (△1.8%)	1,348,200 (0.6%)	2,184,500 (△0.3%)	877,300 (△0.6%)	1,023,600 (△0.4%)	1,900,900 (△0.5%)
		公立	854,100 (△1.9%)	500,400 (△13.2%)	1,354,500 (△6.4%)	691,700 (△12.1%)	1,270,300 (7.2%)	1,962,000 (△0.5%)	753,000 (△10.1%)	828,700 (1.0%)	1,581,700 (△4.6%)
		私立	1,506,900 (△1.6%)	620,500 (9.7%)	2,127,400 (1.4%)	1,365,200 (△5.6%)	1,510,400 (8.6%)	2,875,600 (1.4%)	1,444,000 (△3.1%)	997,800 (9.7%)	2,441,800 (1.7%)
		平均	1,353,000 (△2.0%)	605,100 (8.9%)	1,958,100 (1.1%)	1,143,000 (△3.5%)	1,441,200 (5.6%)	2,584,200 (1.4%)	1,243,600 (△2.7%)	1,000,100 (5.9%)	2,243,700 (1.0%)

(注)（　　）は，平成 20 度調査からの伸び率である。